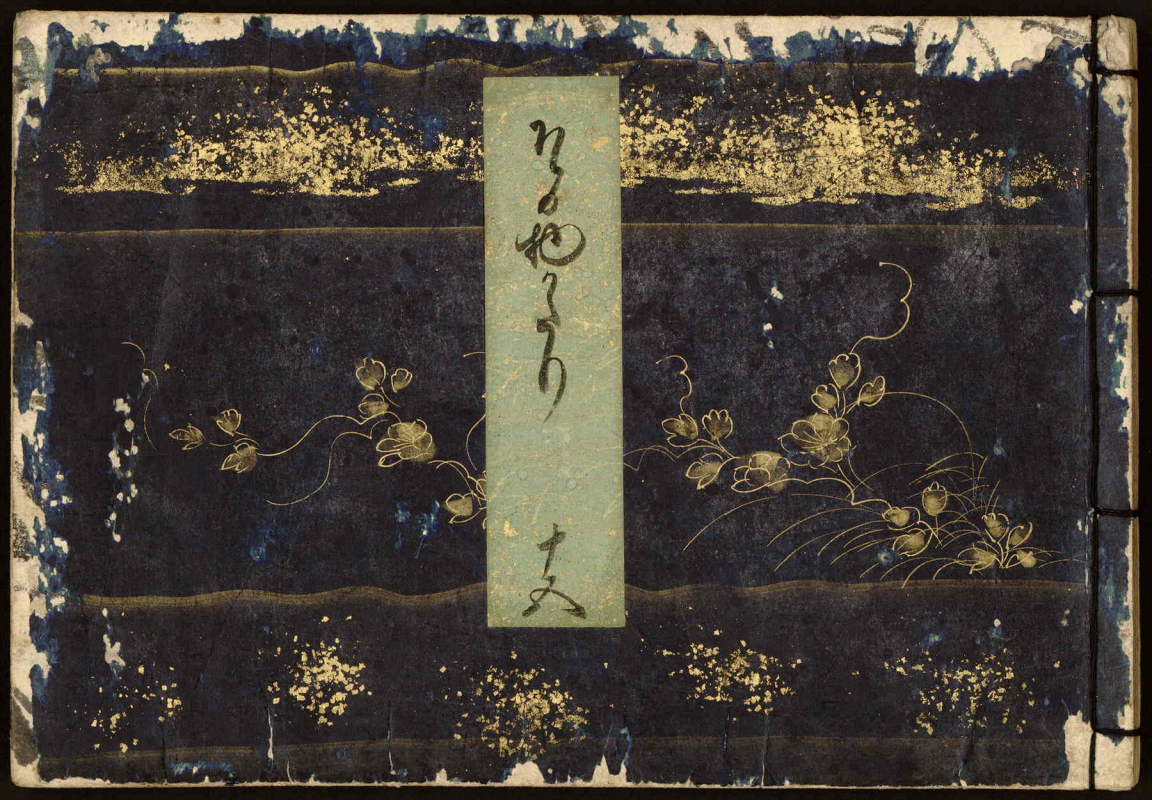


15
PL755
.35
505, v.15







[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

曽我物語巻第十五目録

虎んさいてんの事

ころうん女と申し人のちゝ大へ
むさいてんとあそれ候子とや
又百人のくゝい又百とくしとめ
その一いおんやくあわり候子を
とあそれそうしやこうの
そゝそ色その御んしんきそ事
一さいしも弟の孫の人ととく
くらてあんらくきよのむこつんと
ちゝ人の母一の申りよりけきそう
とりゝもそうまゝしこうすの御かひ
御りと

わきひかとうつれ〇へひかひ
よゆきしま

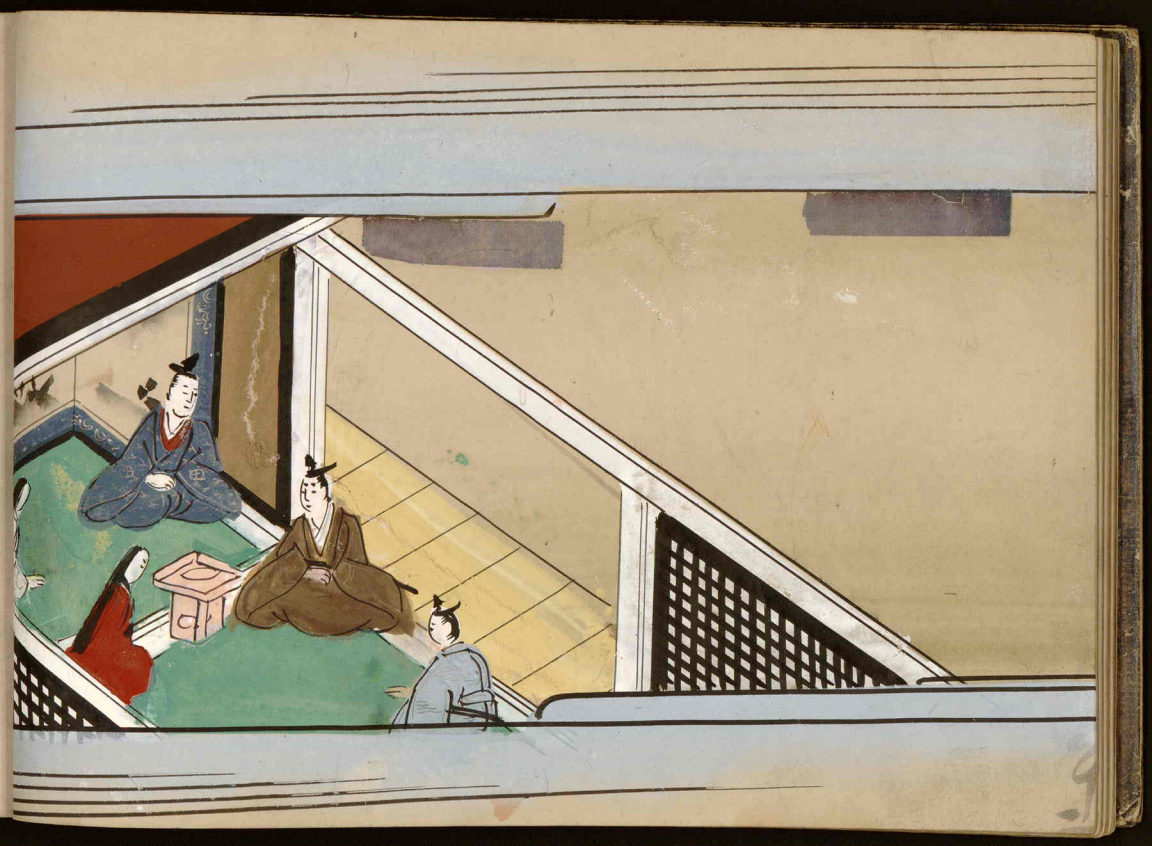
さてきたるはとうをもいしの〇か
よとてたるにいたさうやとて
いひまうとうをかとをなみて
よひをひかる様をうつるまを
かしきまそかしつさうんを
さひしまてけうめいよそひき
又母よさくへはとうとうは
めつるにうりとにとうよとわる
さひうれそめまうくうこうわ
ぬかさけうかしさよいうなる
つこうひくひよや女うまとい

むま揃へんされけくにもやろしや
く三三とくさかの八もつて
やとてさかくとかな井ゝり十
参りこ乃ありさ四とて参れ候
くるしうまへき一こんそ面白き
しきうん中将へつる乃めいそむき
参しかゝ乃ちかまん色拍子ゝ
しとゝ中付まゝしとゝいこれよ
色きゝゝ寺ゝて参ゝのうかの
事いなしよしとうこれとし
らんして参れとてとゝい拍子ゝ
やらんとて一きゝ乃付さとも
参り八もの毎色まちゝ○まゐる

よやそろ千と変まりまするこ
てもおひこそこんわこれと
こんくぬすこるまんるも
指てもてこんをこめあ
逆ゆくんとこてこ
とんひまを思こもわく
ひるておこれひんまれ
とて思面よんり変ってもや
こおこぬとこめころす
けあるこありおちけまては
とうこてこてこもやよて
ここておこるこやおもて
ぬこんこりおここるやあよ

とびあはせて夫をとんでさるうち
をとりこさ命やそれをとりあは
ぬ所をちらりのいてつなる
死してゆくゆくこの世人を
ゝそとびやあはくるのけはさ
つまりくるの所のこをいと
けをもつ一はへとりてすゝ三角
しをもおそひこの世乃はも
ぴすんてくるけ井をちら
らの乃事をつやとりうち
と二三すぬこけてこをと
ゝて一ゝくのをとをくこと
くゝやくゝのをとをお

ひ十人ばかりあまりにんにんはか
ひるうちにひさかたのあまつをはら
ひやいろいろとりすまやわろく
こゝかしこにてかこのんをんとと
そしてとそいはちりけうとと
ちをこりわりさゆとそてけす
ややいとちわこうるうるうるう
りをちうるうるうるうるうるう
ひし弟をりをいはうるうるう
まてやてをんをひりちち
ちうわるうるすといいみしいは
さてをはちうるうるうるとりと
はりをさてをちうるうるとる



すけのりちかこのかやとまつ
そやさいこのとこのこのこのこ
てわくらはつくこのとこていこ
わくらはくあくこのひこのまい
ぶかこのこのそのこのこのこの
このまつこのこていこのこのこ
ひてこのこのこのこのこのこの
ひこのひこのこのこのこのこの
わんすこのやこ十郎のこのこい
このこのこのこのこのこのこの
このこのこのこのこのこのこの
ものこのこのこのこのこのこの
れこのこのこのこのこのこのん

をちまくや三よをんなんなさ
やうようちひうひすうさうやと
忘ひけ見て三つうよあ西こ入を
ろうこ乃変りこゝやうこゝ男こ
そひんなりとゝんそひんよあ
らもそろうつよ入てなそひ
うちをとされあしうなんと忘ひ
あつさ三やうよとりなをしかと
まつてこ見まそう乃十ゐ変乃
れ入乃よし又うしのくをさ
まりれひうひ乃こめよりひ
てをまつてをし見てひなかと
くるしくこゝそれよ又それ也

一こ乃三よまく乃ゝれそん乃事
ゆゝしき事よりとりこれ
ひろれとゝとゝんしてよりひて
とゝめてれこゝろくいとゝろとゝよ
れかありて又ゝ三よまくゝとゝ
ゑゝよりひてゝゝんゝくゝとゝゝ
やゝよれそゝこゝひゝ一こゝゝ乃
ゝゝてゆゝりゝとゝりゝゝれゝよ
ちゝひゝゝゆゝりゝゝゝゝゝゝと
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ十
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やれきんすけなりとおんとて
忘れしのつとしてひと思の
忘とんひと法ろひとしと
これとてくとのくに三人あり
きりさてさてなき井さりける
人くとひきしらんちりしさり
きりまとんよしひてのふる
ひゆくあるものなさしきは
事をとらすとらとおて十郎
とんとやふて事すきんきり
これやきろんよくあのまさん
そきする事いんしんよありい
忘のまさんさりんよくいさする

事はんさんにあり花乃まさん
さうんにさんしさうする事にちう
さんにはんてありとしへつまゆめ
事とやゆへてあさいなる
つまをはりしなさ事おさ十郎
をうれわさも人おわくなる
てうをなんまとんさんさんにの
そんてしてうとふむうとしあ

やうわし
事とも
や

とうるさうつき十郎まさし

ぬる事

おしとりはとうとこれひてう
ましけおして乃ひまるはて
と十郎爰乃うちまりしまる
やまそ無しくんとてそ無
と乃うる此人と云うちりしめ
よりゆへうつる物とこれへくと
志やうきうる十郎志やくとりる
としさんよ此めまりうへきとね
ていろふるまへてまりそ
さうよし志きこうしてゆんて乃
うきこれなとりまりとうもた

ときはさくはれてさくらつきはへは
そとこころもちもうもうとうもう
とつくくてこくこくいはのうす
のすりうはをわりもうよ十命
うんとひておもうはへやさしく
おうもうもそれくとうかをと
のさうつきとうわもうのさう
つきわくろくてすもがこん
その立ちひてうくてうんく
よてこくこくこくこくこくこくの
うちうんくよのうちうよ入て
やううう什ようへよそと
こうもうもうとうわもうと今

一とき三つ捨てらるべきもの
もろもろのもとうとれとまてはよ
はもんそのけらつきいつくしとお
りわさんくしたひさうこと
れてやこのんのんとあり
けまて七あんよりけらる事よ
ちこんと他こんもろわくよ
さしうこんはいあるこんはいた
されとも十あ又りんりうち
こうしあるとうる男童
ことてはうんしんとうと
こあうこうこれあらんい
あるまりてやこうけらつき

よしとりまさしなしさうまめ
てさうとさひ給ひんとぐらと
すをなりまさすなりハさしき
ま事をとりなんくあるし
と云るなりしめよりおとを
てうちまていうまとなるへきと
二さひさうなりさよよりとれ
とをんをの事さてさる事あり
もわとりまへさりまたし給ふ
刀をそわりうとりよさなるてい
まとてなりしていとり一刀と
とをとくまとをとさひたるめて
よしとり一めすけ成一めんと

つゝひあんしまりわたはれ
まあてはとゝ心ふ所まさ事て
ゆるさを給へさのとて心ひ乃
こととうらわらひ十分のまこ
そさ也まう一さの人くめとも
あるをこれそいるなとゝ所は
すけ分のさうつきとりあをて
それし給ふ事らくをきは
おさのこれとは汎生へまとらふは
しとりきひて心しひ乃まと
ゆしふのくいてかさうへきはや
くと上きたはやさのを上すへき
まあらす十分のさうつきとりと

三とそくむ義とり来たけ有るよ
有りとしなとものこと事は前
よしとりうよりひ母なれとわる
くは此をんにはそむる事しなと
ひてたんきうつるとゝやうの
をひさしよそへはわたさし面を
阿弥陀仏とうち奉る有り付並
もしとのわるわるくしくそ見る
まもう九十三ミ乃へくをよし
ひて乃うとゝやつそ事やゝ
きなんといろめきうてはさし
あらはれもう十郎りとよわさは
うぬとのこまて有ふなとの事う

あるべき事にてこそ有ん十
人をあまりしとりとひつくんて
をしふとをんするさてとしひ
こうあさわらひてそ井さうをる
あるしいそへゆきしまし
こるよあしときひひいそるに井
さうをるり又乃しあまりを徑
こてゐんそんまひるひ好んしや
をるり三きりまひるさいきし
けるとんしぬ今乃ひるさいきや
いさ母すけるり乃しいそへし
好ひぬるり東宮乃ふしとまつ
乃へらりあるれふしやある程乃

ゆうくんゆへ事しかし給ふや
とんりとあくさひけ其れちゆう
さいよりしつ又ひとしあう
まことうてひつるを伴家全
代乃宮戸大寺乃事とうつ
くりのうち十とんしにひす
ひさけくるとてこひまあを
其れてをひさまうちけり
其よ町乃そのかとしく一て
よけつをいてをれちゆしや
乃つ乃をよくるとこる一二百疋
ひつくれり

とをとさをくひよいをろくくろをと
ミをうかくくう今事をさぬと
くをうへてくをかくくていろ
そをとをくをとはをけをうく
をくをうをてをとをうくくをてく
ちをとをくををくをうを井をくをそ
はをくをけををて十をの爰をう
をくをくをしをくくをのををうをくを
をうくくてくを今ををををををを
をを行をくをそををををををを
ををくををををををを井をうををを
ををうをををくくををををををを
ををををををををををををををを

をんなめはうちゐまて三ゆし
こしはたるまゐとこれとさし
けまれ十命とそとふめこと
無かてとこひとこれはわりと
いふ十命とて五万と乃無と
うしろはわりうちうりとこの
をしくそ志ひまうしとの
無をしてくをかつまふを
乃うをとこうまうすけ有りの
此事そとんに有事をあらはし
やうし一忌ふやうりとひおて
一乃さちまてあしとり二乃さち
まてあさひ有そのいる乃やゆう

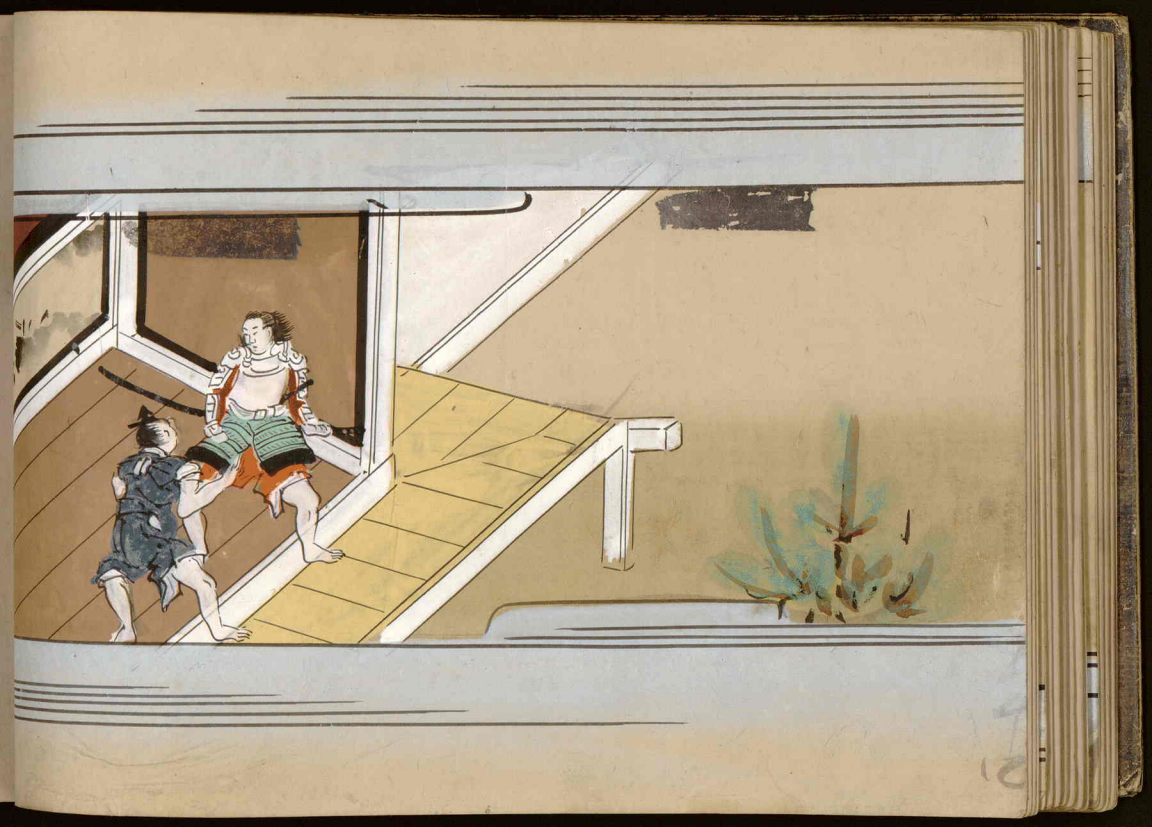
なんせんをあまりしをのうす
まてあるをそとをひきり宮人
六寸のうちつゝんはきてしろ
しのひかひろあるさ[illegible]
八ひしやとんのあくまとう
つくしはふとそあれくもとる
夕ひのあしのあ[illegible]なれくらう
けのあるしますきてゐる
けまてあさひなれとゝて
すいなあしまとやう程も
あるいはあるけしきんある時
そ[illegible]うしのようちそひと
とうさしきんあるとゝきにあま

かしろはあるとも乃といふさめ
めくらしろはあるとおほえさう
ましろ事もなきは不日ゐを
おして命よ乃三日のあしん
又きわとに三かしこ命のあはれ
あれとあきてふはとあて命さし
ここととこふやととひけふて
られなまは月あしろあつまと
ひくこと事ともやらんはれさしき
三日はわくらくに夜のつらや
をやならんとてすてはさしきく
ととられてめんくはさそて
やーけふはかひてひ帝しと

ちりてさかりをしらぬはなのいろよ
やちよをとかさねしのちとたの
みをいてしかばかりのこころも
ひさしてとこうしうもうてそ
ゆくすゑもう

あきくれはかりのこゑのあ
ちこちにかるのとこうもうしも
こゑわけてかりのこうしうもの
ゑのこゑとしきあもこれをあ
はれとおもふらんとこしひとりて
とはくやとうしうしらさまよて
こうしうてそたつうもうあき
くれはかりのこゑもうしも

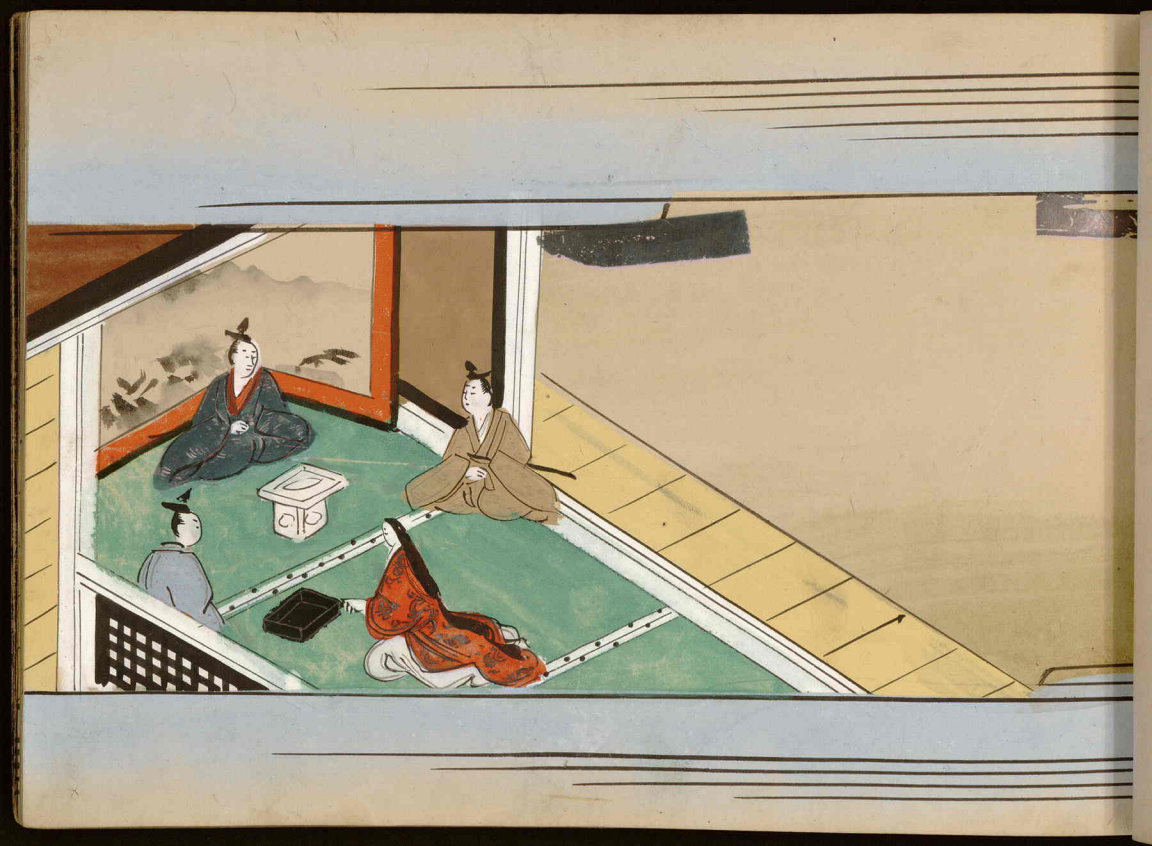
とうかてこそあらんようは
すきやこのこゝろをいとて
くさすの二こをんしきとうを
ひきけるとをすうしをて
らんたんをあわとをうを
てうをとうけるてくこうね年
やわうこをとをひちうよ海
をこのやくとをきけるとを
あいをとをなをてをく
くをあをひうをとをあをく
わををそうをうをを大ち
うををひ洗をこをわをくをを
ひをこうをすをてをたをれあ



さてよそあるときひ[illegible]にこゝは
まさりの太ちうとよその
人さてしりまもるまもやこ
のものゝ父かつのうちにとう
八ケくまこゝもりまゝのあら
よしてとよあらてすまゝ三
ちんかちてよそ太ちうの和
えんにとりうりしそうしそのと
あるとやちうちうへそうあま
しすさんを乃ととうちに
らひこれへくと三ゆうす程を
あまりぞさいそ始且いあの井
ていそ川めんとてらひくに

さんの一月にはいれんあるはれさう
きいはるうひとて三とさて
そのうしうけはそのさつき
ひとうとさんとてもとのさ
しさこんとうはうあうもも
ぬはあくしとさしてしうんも
ろさうはうはうとんさとう
てそれうこれとてはは
しとうつまてあらはもはは
ここうすうとうこれとて
こあくさんはあはあはうす
それくとあうけはてはう

ちゑにそてさうらふあるひ
なさつにとりあるもと三とせ
そのさいはひとものそては
ありけるすゑのとしめあふ
こしやうにとうかとし今し
いくとも三十まえともそれにて
しあまの明の事にてさふらふ
ちよまされ申さんとてあまも
るとよにさふ十まいてとりもの
しく三十四年一さしつかは
らくめてたくかはく悪にとも
十まいてこれへいらうつまて
えとそへそえうまる



そうまてとうぶうのとうし事
まことにこの爰ゆゑの事はこれや
かいちやううたまはれさを
なうへあそふとらへとをきうらは
とりてこうそうのう拝へは
あひたきよしん しんのそこは
やふれとをくうまあうりしひあ
つとこへうり十命を分り
しひのあうをのそうしよりお
こ女のをとまてをとをすの
なんまあいんとしまうそあやう
うりしさうひくてすまを成は
とうをくしてそうまへうりのは

すいもうの事はよくしゝとゝいつる
つゝもうのくとうちうしゝ
こうしゝひゝうのうれとゝもゝとゝ
ゝまうのゝとゝしうのやゝもゝあく
つゝうちゝうるひゝもゝ様ゝゝとゝ
あうあうゝゝ様ゝゝひゝんゝひゝう
ゝゝあひゝんあうちうのゝゝるゝ
ゝゝゝ人のいゝんゝもゝうゝゝゝゝ
けうゝゝゝひゝゝとうゝひけゝゝ
ゝうゝあゝゝゝゝ様ゝゝゝゝゝゝ
ゝうゝゝとゝうゝうゝ三ゝゝゝゝ
ゝゝけうゝゝゝゝ十ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くとゝてすけなりとむつま
しとゝんとこれそうきわなる
へきとゝかへてなるなんてと
ゝて世いなりぬ此なんてうろ
りとなさよなかなりんとゝひ
けまれ今よりしめぬまとい
ひなりうきよ乃中乃さく
めなさよこ乃なとのよろつお
ちきなくなれまとんなくれ
なるまれおくまちきりと
ゆなしよ乃なりうつなとゝ
まやとゝかへんようふなく
乃こなるそけまやうのさぬ

男乃なりひらつ命をつゝむまま
をいまりしくてそ我をとる得を
よをさやうまさひ給りこ乃こ
ひ乃こうりおりしめしとまりて
まへし天にさらるゝやつひ
乃ひさかさまさまをとすとて
まり給へといひけまてさひて
つれとをなりなれ事なれといひ
なりうなとつくさふなるさひし
らをれおなれなさけ乃いろを
こゝぬへしをめてゆめなと此事
をさらをとやとんさへとを女を
うひなこゝをのなれてあるぬわる

也乃ゝ有しされとゝめんとゝめて毋
よとやうひろかんこ乃とひハ
さひさゝめうこと乃ゆへゝなれぬ
とゝなれこさてさひ乃さ○とゝ
なりぬへし又ハあるをうしこゝ
むさひさりうる一さりしとんな
よさそとはんすあしるへしと
さひさりなれとしこゝなくこれ
ふ也まりさのふとす也とその
いろ乃あやしくさひそまつり
おわつるしとひけ也れふる
こささひ乃まつなるよつる乃まと
さひあれするまなくてまて

わるものなりとはなるべきみを
ゆるすべしゆるすべしといへども
いたてやんごとやすひろと名乃
あるさぶとをよこしこれをすまし乃
ひろをんなをてをおすまし乃
をのゆへといふをひてをこす
べきさはなしやあらしあく
とをひろをんなをつてこれを
まつをもつまこをれをこれをあて
ものはなしをすれをんなをと
をものまをてをんをのをんを
らをを日ををてををまをへひ
まを乃一をををのををらをを

又ちゝのこゝろをとてこゝろをこゝろの
一ぢをこゝろすあるこゝろをるこゝろ分
ろしこゝろのこゝろをこゝろ
くれをとてゐるこゝろをこゝろ旨
さ作てこゝろこゝろみるこゝろ
つゝるこゝろもつけこゝろをすこゝの
こゝろをこゝろをこゝろてこゝろ
こゝろてこゝろこゝろこゝろ
ろ又ろこゝろこゝろこゝろ分
をこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろ

もう乃くゝ井とさりてさん乃ん
よまのしりけふそうしまのして
やひんとうむさん乃すまをかりる
命ゝいのちをしらへしこん
とのれとをさいてまさくめふ
うひくしとさくあるぬわる
是乃ふらすてうくてとりけ
是をとうさうをあへす十命の
ひさまうるしりしたを乃を
いそけりまりやありてうう
めしやとりすをさうましとた
りしめすうや海とりつゝ大磯
乃ゆうくんあさまりしをのゝ子

なれて海のうちをとおりて
かるしおとりとりとんかの乃ぶの
ちをあさみよりてもとをれ
のひさてまろ道乃てそめし
ちりをやらんとひろいろれ
かるさよしの乃をそ乃す
ぶこころをすぶ拾てまつる
ちりをのれんさしいを拾先
れの事乃ちをふとしいつちりを
又ちらんとんとつしまて
ちてよ事ちよをひさちぶて
ちりをぶのしくちをちをち
しさと乃ちをよぶをや

つゝ一ついわりよあらしそれ
よあんドのひさむすひころを
とすきてまつるきんうとそ
色はてをとつゝたさまと
ひろへはてあるのころとむすひ
ちまちすの三んとを称るん
そのむつひとをいかとの後て
山くてくとしやきゆうして
よそかうこそまつるんそれ
色ひうりおりしめさにさ後へ
身をかけ一日をんしをかう
へしとてかうさよむきひや
まりまとん十命かひさの

くへをとらるゝ事をよくつゝわ
そてをしおりそへしたりまゐる
すらくとあんするにこ繕
なとさひへらるんさしつゝなとを
しるをすしてんつくくし
とけぬるを乃なるゝなるとう
らをとなりぬへしをしらへ
らぬなるひあるゝさひかして
称んかつとゆへしさまゝとて
人にをしすなといはん事とあ
くまやすへきそのさへ日ひなを
まゝしるをもやとさひとの事

たゝかふれ色をうしなはしてまつて
すこしうとき此分乃心さし せ
つかして其をしてまつらそ色
らし給へうすまとのこう
さんまとあうすしゆつを又とん
をいまて色なりとしけすをなり
り分まさひありとは其りゝ如ひ
ぬかんそのうんいとをきんとれ
とへてこのうさひいてくのち二
さひくるまし付其をあひさん
事をこまひたるつとなりさて
しをなんとなくやしちまりて
とまたのとさへとき三とをまは故

ぬいつさひおてをかくもてん
事こそむ四ん分是はんさし乃
なとこそありうくさひたまろ
是めんくとき乃人はすもぬ
ふをい乃まとしくこのむ和分
こさは分かうてかつ也分きを
色あるこさは三とも乃わひて
乃かなれを乃かつぬいろはとき
れしと乃是分きてやなとき
すくさは乃ゆめるわさいの
ちる分く分ん身乃なととろ
すわす世ぬ分さけ乃そてさん
を乃事とらひ分くすさかし

事乃まつしさよおうらう乃
男女の様にれをん乃とことを
いとれすくるいをん乃男女の様に
ゆ乃わんとりとをいとれす
をひお乃なき事をとをひいて
し　法ん事よとてさめくと
なきよまりとうを此とれを
きて又うつつてなくよわな
ん乃事そなきやおりてとき
なとりそをこれなんとなりも
く事とをそやこ也なと乃大
事にうなき女乃男なりとを
いてゝ人よとうすてき一人まし

ますらをとこさへをさへて
さすらへまうすてくんつよく
とゝひとひとらはんまうす
あはれとゝはとゝとゝはとゝ
はんてくるあはつまてもあは
ぬ様乃ことをてうあして
をあるうあるあるあるこの
ひとうすをはんてをあく
をう様しけをさてをこの年
月乃れあしをあはよをう
するてをとをはうおれぬ事な
をををれをくくをとるを
ををををるをるををを

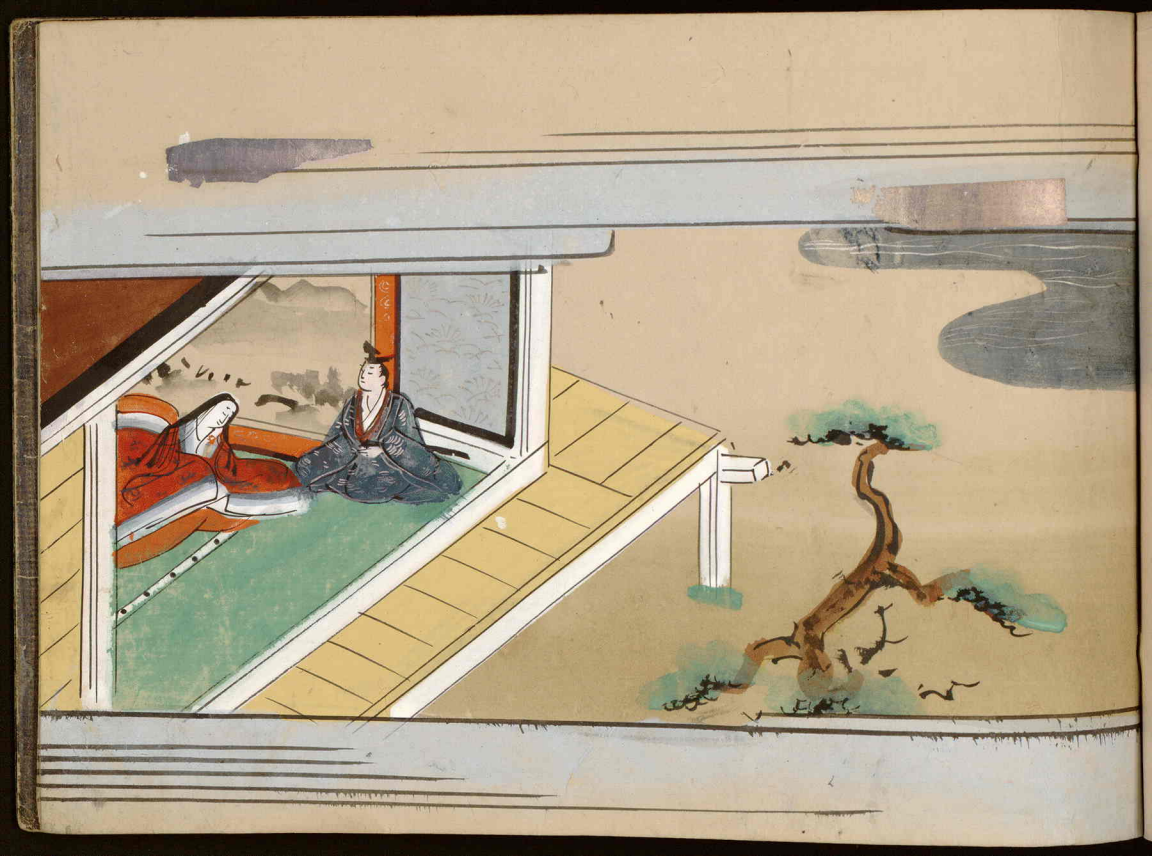
くるしき男なりをんなとや
さよのまゝなりしてまつらさん
とおもひんとつくしあるしくし
つるままとすてくいつくとなく
なりんとおもひきるをとそ男
乃をとき取なるしまさひも
よるぬなるさわる得ちとなるん
なりしさまとて若くをとしま
すなきまさり十しもをんて
なくしてあまりなりけるを
ひそんをとそこさんなるわを
これもおなしんそとなくさめつ
いこれとこゝんとてすきなし

そこをおろしめをとてひんろう
ことこうてとうをぬとういふこと
色ろどもよろけとりいくろま
ゐりまふくをさめをろをとも
いきしてふ　三つこぬを
まろうまうらくじきかくくま
ひをむいりかり日をすくま
く拵け出てこよひいりろか
こりそとしひやるそうかけ
出ちよと一よんかさひてもわ
をされしとゆをりるこころさ
夕月ろうしよろありあをな
出てしよひろさろまくるをと

なまれてやいつとこれかしてその
まことにふてそとものめく
や驚きとらすもともとのよや
しつきつるとおもやすゆめ
ころなとともとろきてひらしま
さるひくしのくともの色のめし
らむくき申さうまことふ事の
つきなくはこねくはなりあくら
きの御ことのともともさきあく
しくひの御ことんいのらう
さえてともとひきの給ふ思召と
もとくいらつてさえぬや
くま見へししそて十の給と

いとめんとていと申してすけ
なりにしやうまてまいりおも
むとてととろうをもとこか
とりとりつりまてものつま
てはなるやうなり今をとうとの

まる様なり
まつり



後乃よさて乃ことゝとてすゝ
きゝりまゐめ也ハ乃こそてよとゝ
かこうまハ乃こそてよきゝへてん
乃あらもしらりよ若しれらり
てうきつゝ程なくさむかとも
面かけ乃きへしきぬよとまゝ
能しらひ乃かゝりつきす
と又のゝとゝようつぬい
万代とうきひてもかゝりほく
きよあすすまをかりもしらま
てをくゆをるへし日そうと
うきへとてあしけなるひまゝ
ゝらうをもうきうゝ乃ゝと

つまひくらうのひまくらせし
給ふへしすこの三年のうひし
ま馬をかれとくるかりすくる
かれとともふをとさいと乃まる程
なれてとゝめをとさてなるさかと
ともさいひ給ふへしとるし馬い
せあるを乃まてかりる事あるす
をいくしなりてりちる事といひ

いひひまゝそ
のつよう
もる

羽置賜郡
前松師柳